

會報

二華会
第52号
2023.3.1

ご挨拶

〜会員の声に寄り添って〜

二華会会長 小出 裕貴子



早春の候 会員の皆様にはお健やかに過ごしてのこととお喜び申し上げます。日頃は本会への温かいご理解とご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

今年度は役員改選の年に当たり、本部役員、常任幹事、学年幹事、運営委員、専門部員が再選を含み新しくなりました。私も会長に就任し、気を引きしめている所でございます。皆様の声に寄り添い努めてまいりますのでよろしくお願いたします。

さて、近年は新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックにより、大変な影響を受けて参りました。本会も令和2年度、3年度の二華会総会が中止となったり、5つの専門部や12の支部も活動の制約を余儀なくされました。今年度に入り、感染対策を講じての活動が再開し、昨年9月25日には3年ぶりに二華会総会が開催され、会食無しで会話も控え縮小した形となりましたが、温かいご理解により無事に終える

ごあいさつ

ー人生は密なるものー

校長 佐藤 弘人



今年度は3年ぶりに二華会総会が開かれ、またいくつかの支部活動も、新たなあり方を探りながら開催されたと同っておりま。準備にあたられた皆様の工夫とご労苦を思うと頭が下がるとともに、応援したい気持ち湧き上がります。

今年も二華会と学校とのつながりとして、生徒の合唱コンクールや文化祭への支援など諸活動に対してご支援を頂き、また七夕飾りの展示や校史パネル展などの活動が実施ができたことは大変喜ばしいことでした。お陰様で仙台二華中学校・高等学校は、コロナ禍においても今できることを模索しながら、着実に歩みを進めることができている。

さて、令和4年の流行語ともなった「青春って密なので!」は、仙台育英学園高校野球部の須江監督の言葉です。生徒にとっては勿論、我々教員にとってもコロナ禍で我慢を続け、密を避ける状態ばかりを考えていた状況や心情を見事に転換してくれた言葉でした。そうは言うものの学校では、全校集会ができない、校歌が歌えない、映像での集会、楽しみな昼食

でも黙食するなど、ひたすら密を避ける日々が続いています。もっと大きな声で校歌を歌い、マスクなしで行事に参加し、友人と笑いながら話をしたいだろうと不憫に思いながらも、これが日常となってきたことを感じます。青春の色が薄まってきていないか心配になります。

マスクに覆われていないのは目のみ。「目は口ほどに物を言う」ものの、さてお互いの気持ちは伝わっているのでしょうか?今は私も生徒と挨拶を交わす時、目に集めて気持ちを取り込み取ろうとしていますが、十分には分かりません。このことわざが成り立つには、口も鼻も頬も顔の表情が見えていることが必要で、その上で初めて目に感情が浮かび、相手に伝わるのでしょう。「目は物を言うけれど、口ほどでもない」と言うところでしょうか。

今年度は、二華会総会、仙台支部と塩竈支部の総会にお招きいただきました。帰路に感じる心の温まりは、やはり互いに顔を合わせ、言葉を交わし、息づかいを感じることで、生き方に共感し、自身に湧いてくる生きる勇氣によるものでしょう。青春だけが密なものではないはずで、私たちが生きる上では、いつのステージにあっても、他者のぬくもりを感じ、エネルギーを受け取る密な状態が必要なのだと思うのです。

来年度は、より多くの皆様にお目にかかれることを楽しみにしています。

令和5年度二華会総会のご案内

日時 9月17日(日) 10:00~12:00

会場 仙台ガーデンパレス(仙台市宮城野区榴岡4-1-5)

会費 2,000円(ケーキセット・おみやげ付きを予定しています)

当番学年 高46回生(平成6年卒) サブ当番学年 高56回生(平成16年卒)、華12回生(令和4年卒)

※皆様のご参加をお待ちしております。



中学3年

広島・京都研修旅行

「千嘉代子さんの足跡をたどって」
〜裏千家宗家研修〜

はじめに

中学三年生の研修旅行は、行き先が広島・京都方面となつて二年目を迎えました。今年には京都で裏千家を訪問し、本校の先輩である千嘉代子さん（東華8回生）の足跡をたどる研修をさせていただきました。

四班に分かれて研修をしました。が、そのうちの二班には千嘉代子さんのご子息である裏千家前家元の千玄室鵬雲斎大宗匠がお話をしてください、大変貴重な経験となりました。

鵬雲斎大宗匠には、本校創立百周年記念式典でも「母の想い出」と題して講演をいただいております。



大宗匠からは、お茶の一杯が平和につながることを教えていただきました。

学校での事前学習

- 1 担当教員より千嘉代子さんについての授業
- 2 大内久美子先生（高30・本校茶道部をご指導）より基本的な作法についての講義
- 3 本校茶道部協力のもとクラスごとに分かれてのお茶会

研修旅行の事前学習として大内久美子先生をお招きし、裏千家や茶道について講義をしていただきました。お茶やお菓子のいただき方などの作法や、千嘉代子さんのお話など、さまざまなことを教えてもらいました。とても貴重なお話をいただいた大内先生に心から感謝しております。



大内先生から丁寧に作法や心構えを教えてくださいました。

研修旅行にあたり、お二人の先輩とのご縁をいただきました。お一人は千嘉代子さんです。二華の前身東華高等女学校を卒業され、裏千家第十四代家元夫人として茶の湯の国際普及に尽くされまし

た。お二人目は、大内久美子先生です。大内先生は二華茶道部でご指導されています。私たちは研修旅行前に、真・行・草のお辞儀やお茶のいただき方、そして茶道で一番大切なことは、お茶をいただくことへの感謝の気持ちを表すことだと教えていただきました。



私たちは研修旅行に行く前に、高校茶道部の先輩からお茶の作法について教えていただきました。事前に大内先生からお話を聞いてイメージはしていましたが、いざお茶室に入ると緊張して頭が真っ白になってしまいました。そんな私たちに茶道部の先輩方は丁寧に優しく教えてくださり、おかげで裏千家のお茶室でもおいしくお茶をいただくことができました。茶道部の先輩方、温かいお心遣いをありがとうございました。

私たちは、初の試みである研修旅行での裏千家訪問に向け、我が校の茶道部の先輩方にお茶をいただきました。そのお茶会に行く前まで、私はお茶を「堅苦しい文化」と思っていました。礼法が覚えられないかなどさまざまな不安でいっぱいでした。しかし、お茶会に参加すると、整えられたお茶室に案内され、思いやりに満ちた先輩が説明

をしてくれました。そこで、茶道において大切なのは、心をこめて入れてくれたお茶や関わってくれた人に感謝することであり、礼法は手段であると教わりました。大切なことを学ぶ経験ができました。

当日の研修

- ・中村業躰（お家元で修業し、ご指導にあたる先生）からお話を聞く。
- ・抹茶とお菓子をいただく。
- ・お茶室の見学
- ・裏千家学園茶道専門学校の見学
- ・茶道資料館の見学

私たちは、裏千家に行ってきた。通常一般の人は入ることができないところに入らせていただき、お茶もいただくことができました。「茶道」と聞いて、礼儀や作法に厳しいと内心ビクビクしていましたが、「茶道」を楽しむことを教えていただきました。安心して楽しく体験できました。ありがとうございました。



季節のお菓子を楽しみながらお茶をいただきました。

私たちは研修旅行で裏千家へと行きました。裏千家学園では、茶道のお稽古をしており私たちは見学させてもらいました。建物や茶室、庭には多くの茶道の工夫や仕組みがちりばめられており、それを丁寧に解説していただきました。また、貴重な茶器などがある資料館にも行き、茶道の歴史に触れました。普段の生活では見ることのできないところまで見学でき、とても興味深い体験でした。

おわりに〜引率教員から

今回の研修では、裏千家の皆さまや本校で茶道部を指導されている秋田陽子先生（高13）や大内先生のご協力のもと、偉大な先輩の千嘉代子さんについての見識をさらに深めることができました。

実際に千嘉代子さんについてのお話を聞いて、お目にかかったことのある方を忘れないで気遣うことや、日常生活での変化にもよく気付けられたことが分かりました。先輩の心ばえを、後輩である私たちも見習っていきたく切に思いました。

二華会入会式 令和4年2月28日

令和3年度は、華12回生228名が正会員として入会しました。入会式は行われませんでした。卒業を祝して本会より入会のしおりと卒業証書ホルダーが全新入会員に贈呈されました。

入学式 令和4年4月7日

中学生105名、高校生240名が晴れやかに仙台二華へ入学し本会から入学祝いとして校章(バッジ)が贈呈されました。なお入学式は、生徒、保護者、職員のみのお出席で行われました。

定例常任幹事会・定例幹事会 令和4年6月17日

各議事について活発に協議が行われました。総会準備委員長より9月の二華会総会のご案内と参加協力依頼がありました。

二華会支部長会 令和4年9月25日

総会終了後に12支部の支部長が集い情報交換を行いました。会員の皆様の親睦を深める役割をになっています。

校史パネル展 令和4年9月30日～10月24日

今年度の校史パネル展は「戦火を超えて」として戦時中の様子を中心に展示しました。



机と椅子
宮城県第二高等
女学校時代(昭
13頃)に使用され
た生徒用机
(椅子が机につ
いている)



戦火を超えて
たすきについて説明
戦争の足音は、日増し
に高くなり、学校生活も
も破局に押しやられた。
愛国婦人会の下部組織
として結成された愛国子
女団は、戦意高揚に利用
された。
昭和14年大日本赤十字
社総会参加の本校愛国子
女団代表の壮行式。

歳時記

～今年度の二華会活動～

令和4年度二華会総会 令和4年9月25日

仙台ガーデンパレスに於いて開催されました。詳細は2面参照。

事業部活動より

事業部長 小野多喜子(高20)

七夕飾りの活動について、ご報告します。

令和2～3年度は、コロナ蔓延のため中止しましたが、今年度は「withコロナ」の日常になりつつあるので、事業部会で話し合い思い切って参加することにしました。

しかし、仙台七夕の開催日は毎年8月6日～8日ですが、事業部は毎週火・金曜日に活動しているので、連坊商興会の方と相談し、1日早目の8月5日～9日に飾ることにしました。

今年度のコンセプトを「世界平和」に決め、材料も極力再利用し「もったいない」を心がけて制作活動をしました。

出来上がったものを、リヤカーで運搬し、現地で笹竹の伐採、飾りつけを行いました。この作業には、校長先生をはじめ、事務部長さん、技師さん等、多くの方のご協力をいただきました。その日は七夕期間中だったため、偶然にもTVで放映され、さらに、審査の結果、銅賞もいただき、部員一同喜びました。

七夕飾りは、その後、校舎1階のアトリウムに飾り、生徒、教職員、保護者の皆様にも見ていただくことができました。

今回も「協力する素晴らしさ、一緒にできたうれしさ」を実感することができました。心がとても温かくなりました。

来年度も、七夕飾りを制作する予定です。是非、一緒に作ってみませんか。皆様にお会いできるのを楽しみにしています。



七夕飾り作業様子全員集合



七夕飾りつけの様子



七夕飾りつけの様子 竹を立てる

ひいな会の会より

令和4年「110年目のおひな様」展示

◎展示期間(2/15～3/1) ◎展示場所(二華会館ロビー)

明治45年、寄宿舎生が寄贈した在舎記念の「内裏雛」五人囃子が飾られてから110年目を迎えることから、当時のひな飾りを再現し、コロナ終息の願いが込められました。

令和5年は2/14～3/1の期間で、二華会館ロビーにおいて昨年同様に展示いたしました。



明治45年のひな飾りを再現

『社長』そのものでした。二女高生時代は、音楽部に所属して活躍された山田さん。妹さんや、お嬢さん方も二華会の同窓生です。また、総会担当学年の際は、会報編集部の一員としてお力添えを頂きました。その後の努力と精進が今回の表彰に結び付いたことに、心からお祝い申し上げます。

文責

山田さんは、創業者であるお父様から会社を引き継ぎ、現在は、仙台市向山の本社と利府町しらかし台の工場を往復しながら、日々の業務をこなす毎日を送っているとのこと。高校時代、アメリカに留学した経験で育まれた海外への視野の広さ、大学(東北大学農学部)での研究から直結しているという仕事の研究内容と、学生時代から現在へ繋がる一本の道が見えるようです。会社の理念である「優れた技術を売る誇り高き商人」の言葉を胸に「もっと海外展開を！」と語る姿は、頼もしい



宮城県産業の発展、地域経済の活性化に最も貢献したと認めるものとして、第10回「富宮城グランプリ」に、山田理恵さん(高33)が代表取締役社長を務める東北電子産業株式会社が選ばれ、令和4年1月に県知事より表彰されました。産学連携で開発した「微弱発光検出法」物質の劣化等を初期段階で捉えることが可能な技術が評価され、この技術は、自動車のあらゆる部品(外装含む)、食品、医療(プラスチック製のカテーテルやシリンドジなど)等の幅広い分野で活用されているそうです。日本工業規格としての公示や国際標準規格化など、国内のみならず海外へも進出し、更なる活躍が期待されています。

トピックス
第10回「富宮城グランプリ」受賞
東北電子産業株式会社
代表取締役社長 山田理恵さん(高33)

二華会合唱団の歩み

多田喜代子(高10)
峯 孝子(高11)

* 二華会合唱団の生い立ち

昭和59年7月8日、古い二女高講堂に沢山の在校生、同窓生が集まり「講堂よさようなら」というお別れ会が催されました。

私達合唱団OG約30名は恩師鈴木久四郎先生の指揮で「浜辺の歌」「荒城の月」「夏の思い出」「希望のささやき」の4曲を歌いました。

本当は一回限りで解散のつもりでしたが、その年の二華会総会は創立80周年の記念総会で、その総会で又歌ってほしいと言われたのです。宮城しのぶさんをゲストに迎えた総会で、指揮は鈴木久四郎先生、ピアノは宮城学院女子大在学中の北浦典子さん。この総会では、80周年を記念した北浦さん作曲の「そと」「ひとすじの」の2曲も宮城しのぶさんと一緒に歌いました。

それから毎年の総会で歌うため、6月に集まり9月解散の合唱団が出来ました。そして昭和61年合唱団の名称をアンケートで募集し「二華会合唱団」と決まりました。

当初合唱団OGだけだった団員も新聞広告等で宣伝してからは歌の好きな同窓生が多く集まりました。上は二高女の方から一番若くて二女高33回生まで、団員数も多い時で35名ほど、最後は25名となりました。

一年を通して練習したいという話が持ち上がり、1か月2回、二女高の音楽室を練習場所として本格的に活動を始めました。

恵まれたことに、二女高の音楽室を週末の土曜日か日曜日の午後お借りすることが出来、新校舎建設の時もプレハブの仮校舎に3年間通いました。新しい二華会館が出来てからは二華ホールが練習場所となりました。

* 指導者は歴代の音楽の先生

まずは鈴木久四郎先生(昭11~44年在籍)。現合唱団員の殆んどが鈴木先生の教え子です。久しぶりに音楽室で鈴木先生を囲んで歌った事が懐かしく思い出されます。

鈴木先生が体調を崩されたころ、丁度平野和夫先生(昭44~平4)が定年を迎えられました。平野先生のご指導を頂くようになってから、対外的な活動も増え、在仙高校OG合唱団合同演奏会を隔年で4回、そして平成6年10月、創立10周年記念第1回二華会合唱団演奏会を戦災復興記念館で催しました。その後、定期演奏会を10回、又「平野和夫の指揮によるサマーコンサート」を10回と毎年演奏会を催してきました。先生のユーモア溢れるお話に毎回楽しく笑顔の絶えない練習を重ねてきました。

平成25年11月に開催した第9回コンサートから、斎藤淳先生の下に結成した「二女高音楽部OG合唱団」とジョイントで演奏会を開催し、平成28年の第11回コンサートから斎藤淳先生(平4~21)にご指導頂くことになりました。

しかし、斎藤先生が東京へ転居されることになり、急遽水口裕子先生(平21~)にご指導をお願いし、第12回、13回のコンサートを開催することが出来ました。



鈴木久四郎先生と、初めてのおそろいのユニフォーム

このように二華会合唱団は歴代の音楽の先生にご指導を頂き、練習場所も学校ということで、気持ちの上ではいつも高校時代に戻ったような楽しい練習の日々でした。

* 思い出に残る演奏会

私達は数多くの演奏会を行ってきましたが、一番思い出に残っているのは何といっても第1回の演奏会です。それ迄対外的な活動をしていなかった私達ですが、平野先生のご指導を頂くことになってから、在仙高校OG合唱団の合同演奏会などを経験し、平成6年10月に創立10周年記念第1回演奏会を戦災復興記念館で催しました。

構成は4ステージで、1ステは新調のサーモンピンクのドレス、2ステは白いブラウスに各々違うフレイヤースカートに着替えました。

この着替えのために10分間が必要です。指揮者の平野先生はアマチュアマジシャン。そこでこの10分間を利用してマジックを披露してもらうことになりました。

後々の話です。「世界中広しといえども、演奏会でマジックを披露した指揮者は私ぐらいだろう」と平野先生は言われました。演奏会は無事終了。お客様も喜んで下さいました。

団の活動としてはその他、校内合唱コンクールでの演奏が2回、C&Gコンサートでの演奏が1回、老人ホーム慰問、二華会東京支部での演奏が2回ありました。百周年記念の「百花斉放」も心に残っております。

* 最後のコンサート11月13日

この様にいろいろな思い出を紡いできた合唱団ですので、出来ればこのまま後輩に受け渡し、末永く活動を続けて行きたいと願っておりました。しかし、それもかなわず、団員の高齢化により今回のファイナルコンサートを以て38年間の歴史に終止符を打つことに致しました。ファイナルコンサートで歌った校歌は一生忘れる事の出来ない歌だと思います。

皆さまに長い間ご支援を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

なお、この38年間にお世話になった先生は次の通りです。

指揮者：鈴木久四郎先生 平野和夫先生

斎藤淳先生 水口裕子先生

ピアノ：北浦典子さん(高33) 石幡敦子さん(高32)

菅ノ又淳子さん(高44) 神谷真奈美さん(高31)

鈴木純乃さん(高45)

ヴォイストレーナー：佐藤園子さん



二華会合唱団第13回コンサート～ファイナルコンサート～ 中央是水口裕子先生



平野和夫先生、斎藤淳先生、二女高音楽部OG合唱団(現・二女高OG合唱団)とともに